



ヒューストン日本語補習校
世界にはばたく

Bluebonnet

補習校便り No.1

2026年4月3日

文責 皆川宏志

HP:www.jei-houston.org

第54回 幼稚部卒園式 小・中学校卒業式 高等部修了式

3月14日(土)、在ヒューストン日本国総領事館総領事 長沼善太郎様、ヒューストン商工会会長 川上篤樹様、運営委員長 永岡学様、PTA会長 吉本健志様をはじめとする多くのご来賓及び保護者の皆様に見守られながら、卒園・卒業・修了証書授与式を挙行することができました。

補習校生活の節目として、これまでの生活を振り返り、新たな生活への意欲を高める場となりました。



「お祝いの言葉」

そつ園生のみなさん、ごそつ園おめでとうございます。4月から、みなさんは小学生ですね。新しいお友だちといっしょに、べん強をするのは楽しみですか。

小学生になると、国語でかん字をならいます。かん字をべん強すると、絵本だけでなく、いろいろな本を読めるようになります。

算数では、「水のかさ」をべん強します。じゅぎょうでは、スプーンやコップを使って水のりょうをはかるのがとても楽しかったです。ほかにも、絵日記を書いて、みんなにはっぴょうする時間もあります。お友だちの絵日記を読んだり、聞いたりするのは楽しいし、自分の絵日記をじょうずにはっぴょうできると、はっぴょう名人にえらばれるので、うれしい気持ちになります。

小学校に入学すると、さいしょはドキドキすることもあるかもしれませんが、でも、少しずつワクワク楽しい場しょになるとと思います。小学生になったみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

小学部 2年C組 蜂谷 紗来さん



「答辞」(小学部)

ブルーボネットの青い花が咲きそろい、テキサスの春の訪れを感じる今日、私たちのために、このような素晴らしい卒業式を開いて頂き、誠にありがとうございます。6年前、私たちの小学校生活は新型コロナウイルスの感染拡大とともに始まりました。入学式は開催されず、授業もリモートからのスタートでした。教室の机の代わりに、家の食卓に即席で作った自分だけの教室。画面越しに見る先生方やクラスメイトを前に、友達はあるのか不安な気持ちを抱いていたことを覚えて

います。そんな中、先生方は幼い私たちのために、ミュートの練習から始め、手作りの板書など様々な工夫を重ねてくださり、私たちは楽しく学びを続けることができました。また、授業を重ねる毎にクラスメイトの名前を覚え、対面で会える日を心待ちにするようになりました。

1年半後、対面授業が再開。マスク着用や黙食など、以前と同じ環境ではありませんでしたが、先生やお友達と直接会えた喜びは今も忘れられません。こうして私たちは少しずつ日常を取り戻していきました。

3年生からは運動会も行われるようになりました。日本では一般的な行事ですが、ヒューストンで育った私にとっては新鮮で、当日だけでなく練習の時間も楽しい思い出となりました。幼稚部から小中高の全校生徒で挑んだ大玉送りや小学部対抗綱引きを通して、チームワークの大切さを学びました。1人では成し遂げられないことも、周囲の人と協力すれば立ち向かうことができると気づきました。6年生の茶道教室では、ひとりひとりにお茶を点ていただき、その心遣いがお茶から伝わってきて、とても感激しました。実際の茶室を模した静かで厳かな雰囲気の中、日本の伝統に触れるという、日本でもなかなか出来ない貴重な体験をさせて頂きました。6年間、このような貴重な経験と共に、たくさんの出会いに恵まれました。進級後も変わらず温かく声をかけてくださった先生方、少しずつ増えていった友達。そうした出会いを重ねる中で、補習校はいつの間にか私にとって心が安らぐ、かけがえのない大切な居場所になっていました。

私たちはこれから、それぞれの新しい道へと進みます。中学部では、日本語や日本についてさらに理解を深め、将来の糧にして行きたいと思います。ヒューストン日本語補習校での学びと挑戦する心を胸に、これからも努力を続けていきます。

現地校と補習校の両立は簡単ではありませんでしたが、先生方や友達に支えられ、6年間通い続けることができました。先生方、PTAの皆様、そして運営に関わってくださったすべての皆様に深くお礼申し上げます。

また、毎週早起きをしてお弁当作り、送迎を含めサポートしてくれたお父さん、お母さん。本当にありがとうございました。最後になりましたが、卒業生を代表し、改めて感謝の気持ちをお伝えして、答辞とさせていただきます。ありがとうございました。

小学部卒業生代表 6年B組 児嶋 咲良さん



「答辞」(中学部)

卒業生の皆さん、ついにこの日がやってきました。登校初日が遠い昔のように思えますが、不思議なことに、ついさっきのことのようにも感じます。私は去年この場所で、在校生代表としてスピーチを述べました。今度は、卒業生としてこの場所に立ち、まずはここまでこれたことへの感謝を、支えてくれた皆様にお伝えします。

本日、このような素晴らしい式を開催してくださった先生方、関係者の皆様、ご来賓の皆様、本当にありがとうございました。校長先生、私たちの活動を全面的にサポートしてくださったことに心より感謝します。時々教室がざわざわしてきても、粘り強く授業を進めてくださった先生方には何度も背中を押されました。本当に感謝しかありません。さらに何より感謝したいのは家族です。私の家からこの補習校まで片道1時間半かかります。幼稚園から来ているので、ざっと今までの運動時間を計算すると1560時間になります。応援、本当にありがとうございました。高校に入っても、引き続き見守ってくださいね。

私は、現地校で高校2年生です。いろいろな事に首を突っ込んでいるため、忙しすぎて補習校の宿題をする時間がほとんどありませんでした。思い返せば、9個ぐらい部活を掛け持ちしていた時期もありました。普段、補習校の宿題はすっかり頭から抜け落ちていて、土曜日の朝になってやっと「あ、そういえば作文の課題あったな」とか「漢字テストあんの?」とか、急に思い出しては焦る日常を過ごしました。

正直に言うと、ここに来るのが面倒くさいと感じる時もありました。しかし、振り返ってみると、補習校では運動会の係や宇宙セミナー、遠足、水ロケットなど様々な経験をしました。時には駐車場が急に使えなくなったり、停電したりした時もありましたね。しかし、迅速な対応で補習校はすぐに日常に戻りました。補習校は、ただ勉強するだけの場所ではなく、日本から飛行機で15時間離れたこのアメリカで、同年代の日本人の友達と会える大切な居場所でした。卒業生の皆さん、高校に残る人も、受験で日本に帰る人も、現地校に専念する人と別れますが、離れていてもそれぞれの場所で人生一生懸命頑張りますよ。

さて、日本の義務教育を終える今、最後に在校生の皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、忙しくても様々な経験を積んで欲しいということです。私は全く知らない部活に入って予想外に気に入ったり、逆に好みじゃないことに気づき、潔く退部したりしたこともありました。とにかく、いろいろなことに手を出さないと誰にも、自分でさえも、自分の事はわからないのです。既に将来が決まっても、迷っていても、経験してみないと分からないのです。なぜ、現地校が忙しいのに補習校に来るのか？実は、私には10歳年上の兄がいます。兄はこの補習校に通い卒業しました。今ではアメリカの企業に就職し、補習校で習った日本語の経験を生かして日本にたくさん出張しています。この先「なんで補習校に？」と思う時が何度もあるかもしれません。その時こそ、補習校に来て踏ん張ってみてください。仲間もいるしなにより、2つの全く違う世界を両立することで貴重な経験を得られる場所なのです。

たとえ週に1回しかなくても、日本の学校に比べて学習量が少なくても、皆さんがここまで続けてきたということはとてもすごいことです。兄もそうだったように、積み重ねた経験はどこへ行っても必ずついてきます。だから卒業生の皆さん、在校生の皆さん、そして私たちを支えてくださった大人の皆さん、忙しいと思っても迷っていても、この卒業式が終わった後、ぜひ何かひとつ新しいことに挑戦してください。今日という日は終わりではなく、それぞれの人生の一步なのです。本日は誠にありがとうございました。



中学部卒業生代表 3年 A組 藤原真由さん



「代表挨拶」(高等部)

陽光が春の訪れを告げる、と言うには、テキサスの太陽は1年を通して変わらず、私たちに降り注いでいます。けれども、季節の輪郭がはっきりしないこの地でさえ、今日という日は確かに特別な重みをもって、私たちの胸に刻まれています。これまで積み重ねてきた日々を振り返ると、この瞬間が私たちにとって大きな節目であることを、静かに、そして確かに実感いたします。

本日はこのような晴れやかな式典を、私たち修了生のために挙行していただき、心より御礼申し上げます。

私たちにとって高校生活は、まるで1冊の本の物語のような時間でした。ページをめくるたびに新しい出会いがあり、思いがけない出来事がありました。時には立ち止まり、悩み、迷いながらも、私たちは少しずつ、自分自身という主人公を育ててきたのだと思います。

私自身にとって、補習校は決して「得意な場所」ではありませんでした。アメリカの大学進学を目指していた当時の私は、日本の学びの意味や価値を十分に理解できていなかったのです。それでも3年間通い続けたのは、この場所が私に「挑戦する勇気」を与えてくれたからでした。

年数回行われる山梨英和女子高校との交流会の企画と司会。全補習校ビブリオバトルの代表としての発表も行いました。私は約2年間、学級委員長を務めました。週に1度の登校、限られた時間の中で、昼休みを削りながら話し合いを重ねました。思いの温度は人それぞれで、同じ方向を向くことの難しさを何度も感じました。毎年同じようにTシャツを作り活動が終わる。その繰り返しの中で、高校3年生になった私は、どこか物足りなさを感じるようになりました。

「このままでいいのだろうか。」

その問いが私の中に生まれました。だからこそ、この立場を生かして何か新しいことに挑戦したいと思いました。

そこから生まれたのがマスコット計画です。「マスコットを作ったら面白いのではないか。」ほんの小さな提案でしたが、自分たちのアイデアが形になるかもしれないと思えた瞬間、胸の奥に確かな灯りがともりました。



もちろん簡単な道のりではありませんでした。先生方のご指導のもと、校長先生への提案、生徒へのアンケート、他の学級委員長への説明。現地校との両立の中で思うように進まず、焦りや悔しさを感じたこともありました。それでも、この経験は私にとってかけがえのない宝物です。

なぜなら私は、この経験を通して知ったからです。思いは行動に変えたとき、初めて形になるということ。そして、声を上げ続ければ、その声は必ず誰かの心に届くということ。

この計画は決して私1人の力ではありません。先生方が私たちの声に耳を傾け、信じて支えてくださったからこそ実現できました。共に悩み考えてくれた学級委員の仲間、背中を押してくれた友人たち、そして協力してくれたすべての生徒の皆さん。本当にありがとうございました。1人ではできなかったことも、「私たち」になったとき可能になるのだと学びました。

在校生の皆さん。皆さんはそれぞれの人生の主人公です。周りの声に迷うこともあるでしょう。自信をなくす日もあるかもしれませんが、それでも物語を進めるのは、自分自身です。どうか自分の心の声を大切に、挑戦することを恐れなくてください。

また、今日まで私たちを支えてくださった保護者の皆様、送り迎えや励ましの言葉、その一つひとつが私たちのページをめくる力となっていました。心より感謝申し上げます。

高校生活は、1冊の物語のような時間でした。しかし物語はここで終わりではありません。今日という日は終わりではなく、新しい章の始まりです。これから先、思い通りにいかない日もあるでしょう。それでもここで学んだこと、出会えた人とのつながりを胸に、私たちはそれぞれのページを自分自身の手でめくっていきます。どのような展開が待っていようと、主人公として誇りを持ち、歩み続けていきたいと思えます。

高校3年間、本当にありがとうございました。これからのヒューストン日本語補習校のますますのご発展を心より願ひ、修了生の言葉といたします。



修了生代表 高等部3年 足立佳駿さん

明日からの予定

駐車場利用のルールをご覧ください。

日	日 程	行 事 その他	校内掲示
4月3日(金)		所属クラス発表(メール配信 5PM)	
4月4日(土)	午前授業(昼食なし) 11:40(55)下校	初登校日 お迎え時の駐車場及び時刻変更(下記参照)	

最年少在学生の学年	登校時【通常通り】	下校時【4月4日(土)変更】
幼稚部	南側駐車場 8:45~8:55	南側駐車場 11:40~11:55
小学部1年生	南側駐車場 8:30~8:45	南側駐車場 11:55~12:10
小学部2年生	北側駐車場 8:45~8:55	北側駐車場 11:40~11:55
小学部3年生・4年生	北側駐車場 8:30~8:45	北側駐車場 11:55~12:10
小学部5年生・6年生	東側駐車場 8:30~8:40	東側駐車場 11:40~11:55
中学部・高等部	東側駐車場 8:45~8:55	東側駐車場 11:55~12:10

ご協力お願いします

4月11日(土)	普通日課	中高等部入学式(9:15~10:00) 幼稚部入園・小学部入学式(10:10~11:00) 令和8年度 始業式(12:45~13:05) 駐車場は終日フリーとなります。 向かい小学校駐車場もご利用ください。	
4月18日(土)	普通日課		
4月25日(土)	普通日課	避難訓練①(AM) PTA総会	